

意識が希薄...ならば自分たちでつくってみよう



05

判もあるが、憲法の大切さ、九条の意義を真剣に考えてみようという思いは共通だ。

自分たちで「憲法」をつくったらいよいよ「改憲は時間の問題だろう」。札幌市中央区のオフィスビルの一室で、十人ほどが意見を交わしていた。

「護憲派」の動きが出始めた。二十日にオープンした「ピー」の中には「今の時期に憲法を論じスカフエ。特定非営利活動法人るのは、改憲派を利用する」との批(NPO法人)さっぽろ自由学校

護憲派も「起草」

「遊」理事の越田清和さん(48)と大が八つの市民団体に呼び掛け開いた。憲法論議のヤマ場となる今後二年は部屋を確保したいという。二月まで約半年間、「市民の手による」ビープル憲法をつくってみたい」という講座を「遊」で開いたことが、開設のきっかけだ。「遊」スタッフの小泉雅弘さん(48)は「戦争体験世代より下の世代は、『自分たちの憲法』という意識が希薄。憲法をつくる試みは憲法を自分たちのものにするこは持つべきだ」と感じたといい、が交わされ、時間切れでまともななかった。参加者から「もっと議憲フォーラム」は四月、憲法改正

市民団体「大切さ見直す機会に」

についての提言をまとめ、ホームページ(アドレスhttp://www.citizensforum.jp/)で公開した。九条には手を付けない一方、条文中の「国民」を「市民」に変え、義務規定をなくすなどの内容だ。フォーラムの母体で市民の政治参加を訴えてきた「市民立法機構」の須田晋海・共同事務局長(56)は「憲法は本来、市民社会が国家をコントロールするためのものがあるべきだ」と、市民による議論の大切さを強調している。